

第2期・下北山村 まち・ひと・しごと創生総合戦略

<概要版>



森と生きる

森に遊ぶ

森で育む

きなりの郷 下北山



令和2年3月

下北山村

I 第2期地方創生総合戦略の位置づけと対象期間

第2期計画で下北山村では、引き続き地方創生・人口減少克服という構造的課題に取り組むため、45年後の2065年（令和47年）までを対象期間とする「第2期下北山村地方創生総合戦略」を策定することとしました。

本総合戦略は、国の「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」の趣旨を尊重し、本村における人口の現状分析及び地域経済、住民生活等の現状分析を行い、今後目指すべき将来の方向と人口の将来展望を示すものです。

II 人口の将来展望

下北山村の人口は、現状のまま推移すると2045年には373人、2065年には170人まで減少するという推計が出されています。

今後は、移住促進をはじめ、交流・関係人口の拡大を図るとともに、地域経済の活性化、地域交通の整備などによって、生産年齢層の転出防止・若い世代の転入促進をめざすとともに合計特殊出生率（一人の女性が一生に産む子どもの平均数）の上昇を図ることとし、将来展望人口は2045年で約474人、2065年で約333人と見込みます。

定住人口の見通し

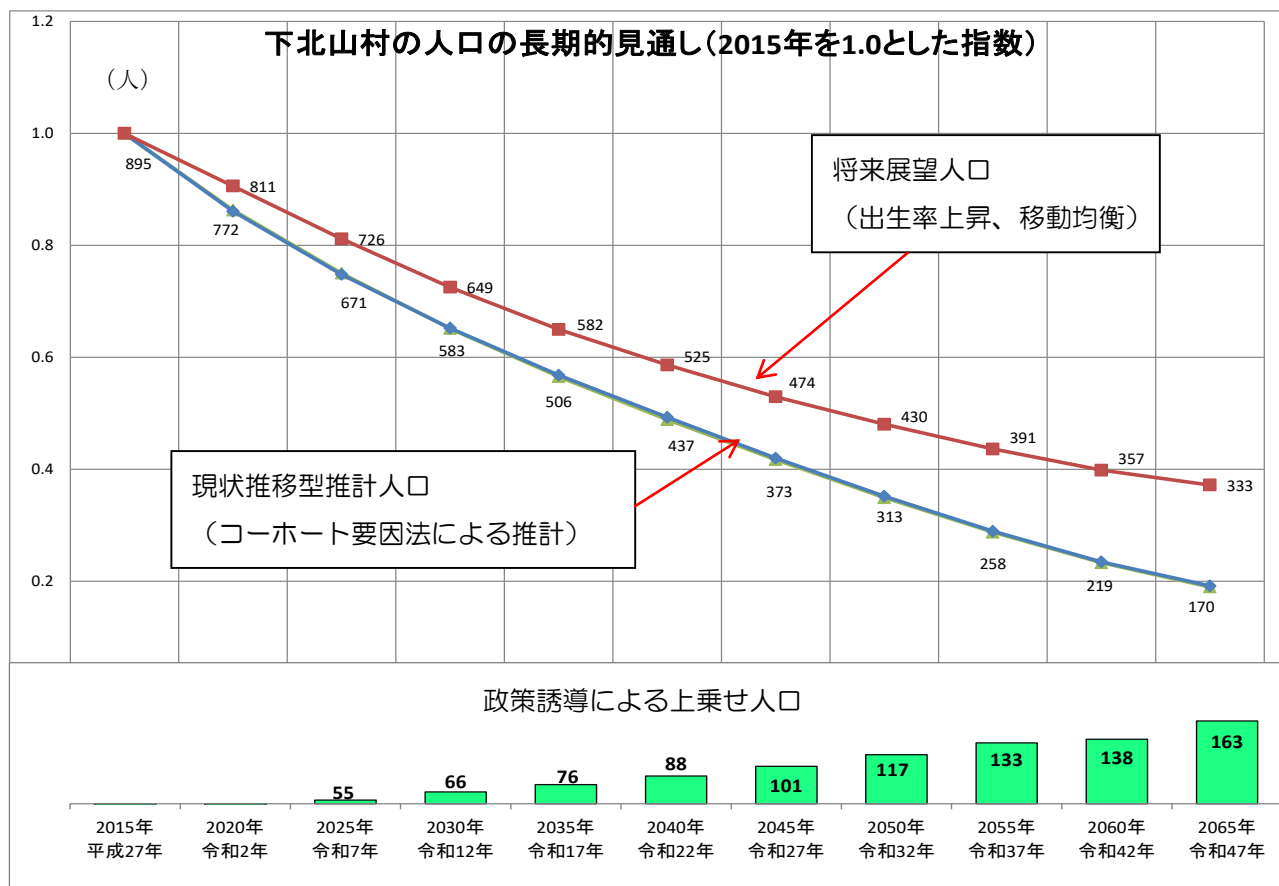
2025年（令和7年）：約726人

2045年（令和27年）：約474人

2065年（令和47年）：約333人



資料: 社人研人口推計ワークシート



将来展望人口の年齢別割合をみると、年少人口割合は2025年以降増加に転ずる一方、高齢化率は2035年に53.8%とピークを迎えその後下降していくと見込まれます。

	2015年 平成27年	2020年 令和2年	2025年 令和7年	2030年 令和12年	2035年 令和17年	2040年 令和22年	2045年 令和27年	2050年 令和32年	2055年 令和37年	2060年 令和42年	2065年 令和47年
年少人口割合	7.2%	6.2%	6.8%	7.7%	8.5%	9.6%	10.9%	12.6%	13.4%	14.1%	14.6%
生産年齢人口割合	45.5%	43.6%	41.8%	40.4%	37.7%	37.2%	37.5%	40.0%	43.8%	47.9%	54.4%
老年人口割合	47.4%	50.2%	51.5%	52.0%	53.8%	53.1%	51.6%	47.4%	42.8%	38.0%	31.1%

※端数処理しているため合計が一致しない場合があります。

Ⅰ 第2期下北山村地方創生総合戦略の基本的な考え方

1 国の創生総合戦略及び本村人口の将来展望との関係

国が掲げている「まち・ひと・しごと創生」政策5原則「自立性、将来性、地域性、直接性、結果重視」に基づきながら、本村における人口減少と地域経済縮小の克服、まち・ひと・しごとの創生と好循環の確立を目指し、取り組んでいく必要があります。

また、施策の推進にあたっては、住民（村外住民）、企業・事業者など、多様な主体との連携（政策間連携、地域間連携）が求められます。人口の現状と将来の展望を踏まえて、今後5力年の目標や施策の基本的方向、具体的な施策をまとめたものです。

2 下北山村総合計画との整合

下北山村地方創生総合戦略は、「きなりの郷下北山村 元気 本気の人気村」を将来像とする協働のむらづくりの基本的指針である、下北山村総合計画及び国が示す地方創生戦略の政策分野と整合させつつ、特に若い人たちが夢と希望の持てる活力ある村づくりを推進し、「住みたい、住んで良かった」、「行きたい、行って良かった」と思えるような下北山村の実現を目指します。

3 戦略の実施期間

戦略の実施期間は令和2年度から令和6年度までの5年間です。

4 計画のフォローアップ

各基本目標における数値目標、重要業績評価指標（KPI）に基づき、取組の効果を定期的に検証するとともに、社会経済情勢や村の内外の状況変化に対応して、適宜戦略の見直しを行い、効果的な施策の刷新に取り組みます。

II 第2期下北山村地方創生戦略の体系

下北山村地方創生戦略の基本目標	施策の基本方向
基本目標 1 森と生きる 仕事づくり、ものづくり、ひとづくり	1 持続可能な森づくりと林業経営
	2 きなりブランドの研究開発
	3 起業・就業支援
	4 地域内消費の喚起
基本目標 2 森に遊ぶ もてなし、ふれあい、感動づくり	1 交流・関係人口の拡大
	2 きめ細かなもてなし体制の推進
	3 新しい観光資源をつくる
基本目標 3 森で育む 子どもの笑顔ときなりライフ	1 関係人口をはじめとする定住・転入の促進
	2 結婚・出産・子育てへの切れ目ない支援
	3 暮らしやすい安心できる「きなりの郷づくり」

<横断的目標>

1 多様な人材の活躍を推進する	①多様なひとびとの活躍による地方創生の推進 ②「きなり生活」の魅力等の情報発信
2 新しい時代の流れを力にする	①未来技術を活用したむらづくり Society5.0 の実現 ②地方創生 SDGs の実現などの持続可能なむらづくり

基本目標 1

森と生きる
仕事づくり、ものづくり、ひとづくり

下北山村は村土の 90%を森林が占めている。村ではこのかけがえのない豊富な森林によりもたらされる安らぎや美しい空気、透き通った川、ダム湖など、さまざまな恵みを活かし自然と共に生きる暮らしを実践してきた。このような村特有の自然をさらに活かし、魅力ある特産品の開発や、多様な分野における雇用を創出する。

- ・新たな雇用を創出します。⇒50 人の雇用を創出(R6)
- ・新規事業者の誘致を推進します。⇒3 社の新規事業者を誘致(R6)

施策 1 持続可能な森づくりと林業経営

- ①森林環境の適切な保全と森林を活用した地域づくりの検討
- ②担い手の育成
- ③木材利活用検討

KPI(重要業績評価指標)

研修会等の参加人数:20 人／年
山林集約化:10 か所
公共施設の木質化:5 施設

施策 3 起業・就業支援

- ①企業誘致の推進

KPI(重要業績評価指標)

誘致企業数:3 件

施策 4 地域内消費の喚起

- ①消費喚起による地域経済の活性化

KPI(重要業績評価指標)

サービス業売上額:300 百万円

施策 2 きなりブランドの研究開発

- ①特産品の安定供給体制の確立とブランド化
- ②「きなりブランド」商品の開発支援

KPI(重要業績評価指標)

春まな、南朝みそ販売額:3000 千円
分野別ブランド認定数:8件



【goal8 雇用創出】
【goal9.産業イノベーション】



【goal15 陸上資源】



基本目標 2

森に遊ぶ もてなし、ふれあい、感動づくり

世界遺産に指定されている大峯奥駈道や前鬼をはじめとした下北山村の豊かな自然資源と人的資源を最大限に活かし、おもてなし力の向上と PR の強化を進め、交流人口の増加を目指す。また、古くからの伝説や下北山村にしかない恵まれた自然環境を題材に、新しい伝説となるきなりの郷の物語を創造し、ふるさと納税返礼品を設ける等をして、下北山村ファン（新規関係人口）の獲得を目指す。

・下北山村を訪れる交流人口を増やします。⇒現状の 154,132 人から 170,000 人に(R6)

・観光消費額の増加を目指します。⇒一人あたり 1,100 円(R6)

施策 1 交流・関係人口の拡大

- ①スポーツ公園施設の再整備（利用可能人数の拡大）
- ②下北山村固有の資源を活かした新しいストーリーづくり
- ③伝統文化や歴史を通じた下北山村らしさの創出
- ④スポーツ公園の魅力を高める

KPI(重要業績評価指標)

スポーツ公園利用者数: 145,000 人

施策 2 きめ細やかなもてなし体制の推進

- ①おもてなし対応の施設整備と人材育成
- ②下北山村の地域資源（ヒト・モノ・コト）を連携・活用したイベント等の実施

KPI(重要業績評価指標)

ふるさと納税者数: 184 人

地域づくり団体数: 6 団体

施策 3 新しい観光資源をつくる

- ①住民の自主的な花いっぱい運動の促進
- ②風致景観整備事業の推進
- ③天体観測の場づくり

KPI(重要業績評価指標)

植栽運動参加者数: 15 人

景観整備実施か所数: 1 か所



【goal9.産業イノベーション】



【goal11 持続可能なむら】



【goal17 実施手段/パートナーシップ】

基本目標 3 森で育む 子どもの笑顔と きなりライフ

美しい自然と人情味豊かな村民との関係の中に営まれる、心安らぐ生活環境を強みに、元気なシニア世代や若い世代の定住促進や移住者との交流を通じて、きなりの郷のひとと自然が織りなす子育て、教育環境づくりを更に進める。

また、あわせて地域交通の整備、地域防災力の向上、いつまでも健康長寿の高齢者への支援の充実など、いつまでも住みたい、住んでみたいきなりの郷づくりを更に進める。

・社会減の抑制を目指します。⇒0人(R6)

・合計特殊出生率の向上を目指します。⇒1.25(R6)

施策 1 関係人口をはじめとする定住・転入の促進

- ①お試し移住体験施設の活用を通じた地域連携による取組みの推進
- ②移住の受け入れ推進
(空き家の利活用等)
- ③移住の受け入れ推進(移住相談体制の強化)

KPI(重要業績評価指標)

移住世帯数: 22 世帯

移住定住問い合わせ件数: 25 件／年

施策 2 結婚・出産・子育てへの切れ目ない支援

- ①結婚・出産・子育てを地域で支える村づくり
- ②下北山村ならではの教育支援

KPI(重要業績評価指標)

成婚数: 累計 10 組

ICT 教育実践学年(クラス数): 9 クラス

英語検定合格者率: 50%



【goal3.保健】

【goal4.教育】

【goal11 持続可能なむら】

施策 3 暮らしやすい安心できるきなりの郷づくり

- ①乗合事業によるコミュニティバスの運営支援
- ②集落環境整備事業
- ③犯罪のない安心した生活維持
- ④福祉医療施設整備に向けての調査・研究
- ⑤高齢者が生涯下北山村で暮らせる村づくり
- ⑥獣害対策

KPI(重要業績評価指標)

広域バスの下北山村での乗降客: 755 人／年

宅配サービスの利用者数: 5 人／年

有害獣(鹿、イノシシ、猿)捕獲頭数: 280 頭

猟友会の会員数: 15 人

横断的目標 1

多様な人材の活躍の場づくり

地域創生の推進のためには、農林業、商工業、子育て、教育、福祉分野等すべての分野での人材確保・定着への支援と、民間組織との連携が必要である。また、村内事業所等におけるいわゆる「働き方改革」への取組促進を図るとともに、女性、障がい者、高齢者、そして、村外の地域づくりに関心のある「関係人口」等の多様な人材が様々な場で活躍できる「きなりの郷」をめざす。

施策 1 多様なひとびとの活躍による地方創生の推進

- ①多様な住民の活躍できる環境づくり
- ②地域おこし協力隊の拡充
- ③民間組織との連携・協働の推進
- ④下北山村ファン（関係人口含む）の創出
- ⑤関係人口の創出・拡大

KPI(重要業績評価指標)

障がい者の雇用率:25%
 地域おこし協力隊の定住数:10人
 民間との連携協定件数:7社
 関係人口数:50人

施策 2 「きなり生活」の魅力等の情報発信

- ①「きなり生活」の魅力等の情報発信

KPI(重要業績評価指標)

下北山村公式 SNS のフォロー一件数:2,200件

横断的目標 2

新しい時代の流れを力にする

情報技術の進展は、予想をはるかに超えるスピードで暮らしに大きな変革をもたらしていく。まち・ひと・しごと創生のスピードを速めるため、利便性や効率性に大きく寄与することが期待される Society5.0 の実現に対応していく。持続可能な開発目標 SDGs は先進国、発展途上国を問わず、経済・社会・環境の三側面における持続可能な開発を統合的取組としている。その理念は地方創生につながるものである。

施策 1 未来技術を活用したむらづくり

○未来技術を活用したむらづくり

KPI(重要業績評価指標)

Society5.0 の実現(Wi-Fi 設置箇所数):13箇所
 65歳以上の就労者数(AIの活用効果):70人

施策 2 地方創生 SDGs の実現など持続可能なむらづくり

○持続可能なむらづくり

KPI(重要業績評価指標)

・SDGs未来都村としての選定:未来都村申請・認定